



小平のまちづくりについて考える

平成 27 年度第 1 回まちづくりカフェ（4 回目）を開催しました！

平成 27 年度第 1 回まちづくりカフェを 7 月 11 日に開催いたしました。今年度最初のまちづくりカフェとなりましたが、昨年度から引き続きご参加の方や、初めてご参加の方まで、12 名の市民の方にご参加いただき、活発に意見交換が行われました。

今回は、まちの将来像のイメージをみんなで共有しながら議論を進めていくことから始めました。その様子について、ご報告いたします。

開催概要

◆日 時：平成 27 年 7 月 11 日（土）

午前 9 時半～正午

◆場 所：なかまちテラス 地下 1 階 ホール



第 4 回目の内容

- 1 開会
- 2 小平市都市計画マスタープラン改定の取組状況報告
- 3 意見交換 1
小平市での暮らしについて
- 4 意見交換 2
7 つの拠点ごとのまちのあり方について
- 5 本日のまとめ
- 6 閉会

改定の取組状況報告

都市計画課より、これまでの改定の取組状況や検討の過程について報告しました。

本日のワークショップでは、これまで検討されてきた「テーマ① 将来の都市構造について」「テーマ② 小平市における生活像（暮らしのイメージ）について」の 2 つをベースに意見交換を行いました。

グループワークの概要

今回は、2 つのテーマについて意見交換を行いました。前半は、「小平市でどのような暮らしがしたいか」について意見を出し合い、後半は、7 つの駅周辺（拠点）でどのようなまちづくりが必要かについて話し合いました。

意見交換 1 小平市での暮らしについて

小平市でどのような暮らしがしたいか？



そのためには何が
必要か？

■グループ 1

暮らしの将来像

- ・「小平市は安全安心なまちだが、将来もずっと安全安心なまちを維持してほしい」
- ・「自然豊かで、野鳥が観察できる暮らしがしたい」、「運動しておいしいお酒を飲みたい」という意見が出されました。
- ・また、「身近で日常の買い物ができるようになればいい」という意見がある一方で、「離れていても散歩しながら買い物できるといい」という話もありました。



小平市の現状

- ・「商店街に魅力がない」、「小平市は生活しやすいところだし、家賃も安い」という意見に関連して、「大学生や外国人など新しい人が入ってくるが、将来的に出ていってしまう人がほとんど」という話が出されました。
- ・「まちを歩いていておもしろいのは国分寺で、農家がいろいろ店を出していておもしろい」という印象に対して、「小平市でも農業を体験できる場があります」という情報提供がありました。

何が必要か

- ・「楽しく買い物できるような工夫(B-1 グランプリ、空き店舗利用等)が必要」
- ・「魅力的な場所があれば遠くても行く」、「外から人に来てもらう方法を考えることが大切」といった声があるなかで、「行く場所を選べるように、距離も内容もいろいろなパターンがあることが大切では」という意見に至りました。
- ・「安全安心なまちをもっとアピールすべき」という声がある一方で、現状に満足せず「危機感を持って過ごすことが大切」という意見がありました。
- ・古代文明が、河川の氾濫などにより荒廃した土地を繰り返し復興させたことで隆盛してきた歴史を例に、「小平市も恵まれなかった土地だからこそ、繰り返し改善され発展してきた歴史があり、これからも現状に満足せず足りないところを改善する努力が必要」という歴史の視点からの話もありました。

■グループ 2

暮らしの将来像

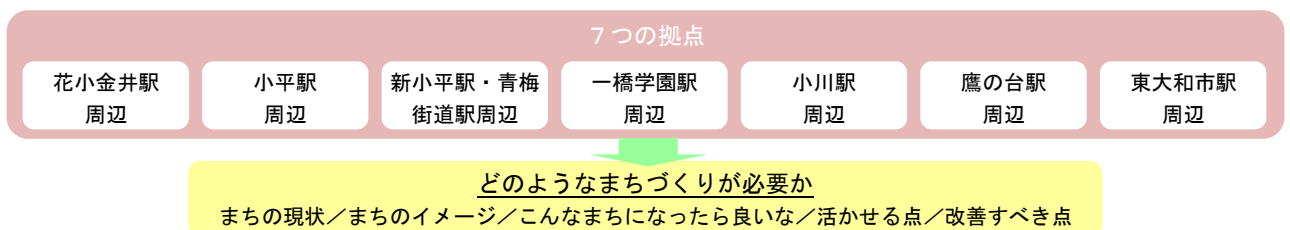
■ 自転車で安全・安心に移動できるまち	・ 自転車を便利に使いたい ・ 自転車で安全・安心して走れる道路を
■ 近所で買い物ができるまち	・ ネット等で発注対応してくれる個人商店があればよい ・ 使いやすい小平駅周辺に(便利な徒歩圏に)
■ 気軽にお茶が楽しめるまち	・ 住んでいて楽しいところをつくってほしい
■ 安心して子育てができるまち	・ 子育てができる安全なまち ・ 治安のよいまち
■ 四季を感じられるまち	・ (グリーンロードや公園など)四季を身近に感じられる暮らしがしたい
■ 地域のつながりがあるまち	・ 子ども、学生、若者、老人がつながっていけるまちづくりを望む ・ 地域のつながりを感じられる暮らし
■ 空気がきれいなまち	・ ストレスのない空気がきれいなまち(渋滞解消による排ガス問題の解決)

特に中心となった話題について

- ・今後の小平市を考える上では、「若い人が住みやすいまち」「子育てしやすいまち」が重要である。
- ・特に、子育て層が小平で暮らす場合、車を使うライフスタイルとなっているので、「車が利用しやすいまちづくり」も重要である。
- ・一方で、「高齢になると車の運転ができなくなり移動が不安」という声もあり、若い人向けのまちづくりと高齢者向けのまちづくりのギャップが垣間見られました。



意見交換 2 7つの拠点ごとのまちのあり方について



■グループ 1

花小金井駅

- ・「市全体に言えることだが、企業や大学などの主要な消費者がいなくなると、商売に影響している」
- ・「東部はバス路線が廃止になったところもあり、不便な面がある」、「特に、昭和病院へのアクセスが不便、駅があるとよい」、「コミュニティバスの路線を改善してほしい」といった交通に対して不便だという意見が多く出されました。



小平駅

- ・「魅力的な飲食店など何もない」、「駐車場がない」
- ・「ルネこだいらがあり、イベントなどをする場所はある」、「集客力はあるので、いいと思ってもらえたらリピーターができる」など、ポテンシャルがあるので、小平駅を中心にもっと何かできないかという意見が多く出ていました。
- ・それに関連して、「通過点ではなく、若い人に来てもらえるまちにするとよい」、「駅北側の路地裏の閉まっている店などを利用できないか」という声もありました。
- ・また、「駅前だけではなく、グリーンロードをイベント時にもっと活用すべき」という意見も出されました。

その他の駅

- ・小川駅:「個人商店が廃業してマンションや住宅に変わっている」、「駅前の通りにお客さんがいなくなった」など。
- ・鷹の台駅:「子どもや学生は使用するが、駅周辺のお店に入る人は少ない」など。

■グループ 2

小平駅

- ・「小平駅周辺地域の一部は東村山市菰山町であるため、駅周辺の盛り上がりに影響があるのではないか」
- ・「まちのイメージとしては、霊園が近くにあるまち」、「駅前については、色々な機能・施設が詰め込まれているような印象がある」



新小平駅・青梅街道駅

- ・「新小平駅は市内で唯一の JR 駅で、都内への移動については非常に便利であるが、新小平駅を利用するにあたってのアクセス性はよくない」、「駅前ロータリーも狭く使いにくい」
- ・「市役所等があり、まちの中心という印象があるが、地域交流センターのような拠点となる施設もあった方がよい」

一橋学園駅

- ・「まちのイメージは、まさに学園都市のようににぎやかだが、だんだんお店が減ってきている」
- ・「利用したいお店等はまだまだあるが、道路が狭く行きにくいので結局利用しない」

その他の駅

- ・小川駅：「再開発事業には期待したいが、商店街が盛り上がるような配慮してほしい」
- ・鷹の台駅：「学生のまち」「道が狭い」
- ・東大和市駅：「買い物便利」「マンションが増えてきた(居住者が増加)」

終わりのひとこと

意見交換が終わり、まちづくりプランナーの野口和雄氏より、本日のまとめをしていただきました。



今回、初参加の若い世代の方が来てくださったことは非常にありがたいことです。今後は、若い方もどんどん議論に引き入れることが必要になってくると思います。そして、小平市は、よいまちであることは間違いないのですが、更に他とは違うブランド性のあるまちにするにはどうすればいいか、今後ご議論いただきたいと思います。

今日驚いたことは、駅周辺の話から、道路や交通環境の話へと広がり、更に小平市全体の都市構造をどうするかという、まさに都市計画マスタープランの中心となる議論へと、自然に広がっていったということです。市の中心としての核が必要なのか、駅ごとの個性をつくっていくのか、そもそも交通環境というのは、車、自転車、徒歩の何を中心としていくのかという検討も、重要になってきます。そういうことを次回までの間に考えていただき、次回の議論に反映させていただければと思います。

今後の予定

8月に「まちづくりフォーラム」の開催を予定しています。まちづくりカフェなどの取組報告とともに、都市計画マスタープラン見直し検討委員会の委員長である松本暢子氏(大妻女子大学教授)にご講演いただく予定です。後日改めてご案内いたしますので、是非ご参加をお願いいたします。

まちづくりフォーラム～小平市都市計画マスタープラン改定にあたって～

- ◆日時：平成27年8月29日(土) 10時～12時
- ◆場所：小平市中央公民館 2階 ホール



《問合せ先》 小平市 都市開発部 都市計画課 計画担当

電話 042-346-9554(直通) / FAX 042-346-9513(代表) / e-mail dh0012@city.kodaira.lg.jp

※グループワークでの話し合いによるご意見は、参加者の思いやお考えとして、そのまま掲載しております。